

Ⅲ 中学部の教育課程

1 中学部の教育目標

- (1) 健康に留意し、丈夫な体をつくる。(元気な生徒)
- (2) 自分の力で身の回りのことができる。(自分のことは自分でできる生徒)
- (3) 明るく情操豊かな心を育てる。(明るく思いやりのある生徒)
- (4) 自分で考えて行動し、最後まで頑張り抜く力を育てる。(最後まで頑張る生徒)
- (5) 社会生活への関心を深め、積極的に活動する態度を育てる。(助け合い、協力する生徒)

2 教育課程の編成方針

- (1) 学習指導要領における各教科等を軸に教育課程を編成し、発達段階や生活年齢を把握して系統的な指導を行い、自立し社会参加・貢献できる生徒の育成を目指す。
- (2) 教科別、領域別の指導では、体験的活動を多く取り入れるよう工夫する。
- (3) 生徒の自立と社会参加の実現に向けて、「生きる力」を育成する教育課程を編成する。
- (4) コーポレーションタイムを活用して小学部・高等部との連携を密にし、一貫した系統性のある教育課程を編成する。
- (5) 自立活動は教育活動全体を通して指導するとともに、生徒の実態に応じて時間を設定した指導を行い、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善し、心身の調和的発達を促進するよう教育課程を編成する。
- (6) ・体力の向上及び健康の保持増進に努め、健康で安全な生活を送るための基礎を養う教育課程を編成する。
・性教育については生徒の生活年齢及び発達年齢を踏まえ、学校生活全般を通して適切に行うよう教育課程を編成する。
- (7) 道徳科は、道徳の時間と教育活動全体を通して指導するものとし、社会参加するための望ましい態度と考え方の育成を目指し、教育課程を編成する。
- (8) 進路指導については、小学部、高等部との連携を密にし、継続的に指導するとともに、生徒の発達段階に合わせてキャリアパスポートを活用したキャリア教育を推進する。

3 各教科等の重点

(1) 各教科

① 国語

ア 知識及び技能

- ・日常生活に必要な文字や文章の読み書き、内容の大体を理解する力の定着を図る。

イ 思考力・判断力・表現力等

- ・日常生活において、相手の話を聞き、自分の思いや考えを伝える力を高める。

ウ 学びに向かう力・人間性等

- ・国語で考えたり伝えようとしたりする態度を養う。

② 社会

ア 知識及び技能

- ・身近な地域や市区町村の地理的環境とその移り変わり、公共施設の役割や地域の安全を守る職業、外国の様子、社会生活に必要なきまりを理解する。

イ 思考力・判断力・表現力等

- ・社会的事象について、自分の生活や地域社会と関連付けて具体的に考えたことを表現する基本的な力を養う。

ウ 学びに向かう力・人間性等

- ・身近な社会に自ら関わろうとする意欲を持ち、地域社会の中で生活することの大切さについて自覚を養う。

③ 数学

ア 知識及び技能

- ・数量や図形などについて基礎的・基本的な概念や性質などを理解する。

イ 思考力・判断力・表現力等

- ・日常の事象を数理的に捉え、基礎的・基本的な数量や図形の性質などに着目し、考察する力、数学的な表現を用いて事象を表現する力を養う。

ウ 学びに向かう力・人間性等

- ・数学的活動の楽しさに気づき、数学で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。

④ 理科

ア 知識及び技能

- ・自然の事物・現象について基本的な理解を図る。

イ 思考力・判断力・表現力等

- ・観察、実験などを行い、疑問をもつ力と予想や仮説を立てる力を養う。

ウ 学びに向かう力・人間性等

- ・自然を愛する心情を養うとともに、学んだことを主体的に日常生活や社会生活などに生かそうとする態度を養う。

⑤ 音楽

ア 知識及び技能

- ・音楽表現を楽しむために必要な歌唱、器楽、音楽づくり、身体表現につなげる知識及び技能を身につける。

イ 思考力・判断力・表現力等

- ・音や音楽に興味を持ち、音楽的な表現を楽しんだり工夫することで、曲や演奏の楽しさを見出し、音楽を味わって聴くことができるようにする。

ウ 学びに向かう力・人間性等

- ・音や音楽に関わることで、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、音楽経験を生かして生活を明るく楽しいものにしようとする態度を養う。

⑥ 美術

ア 知識及び技能

- ・表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫し表現する力を身につける。

イ 思考力・判断力・表現力等

- ・造形的なよさや面白さ、表したいことについて考え、経験したことや思ったこと、材料などを基に自己表現する力を身につける。

ウ 学びに向かう力・人間性等

- ・楽しく美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、主体的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組む態度を養う。

⑦ 保健体育

ア 知識及び技能

- ・各種の運動を通して体力や技能を高め、日頃の生活における健康・安全について理解する。

イ 思考力・判断力・表現力等

- ・運動や健康・安全についての自分の特技や課題を見つけ、友達と共に思考を深めて表現したり、判断・解決したりする力を養う。

ウ 学びに向かう力・人間性等

- ・生涯にわたって運動に親しむことや健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

⑧ 外国語

ア 知識及び技能

- ・日本語と外国語の音声の違いなどに気付き、外国語の音声に慣れ親しむようにする。

イ 思考力・判断力・表現力等

- ・身近で簡単な事柄について、外国語に触れ、自分の気持ちを伝え合う力の素地を養う。

ウ 学びに向かう力・人間性等

- ・外国語を用いた体験的な活動を通して、外国の文化などに触れながら、言語への関心を高め、進んでコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

⑨ 職業・家庭

ア 知識及び技能

- ・生活や職業に対する関心を高め、将来の家庭生活や職業生活に係る基礎的な知識や技能を身につけるようにする。

イ 思考力・判断力・表現力等

- ・将来の家庭生活や職業生活に必要な事柄を見だし、課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、自分の考えを表現するなどして課題を解決する力を養う。

ウ 学びに向かう力・人間性等

- ・よりよい家庭生活や将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。

⑩ 生活・職業

ア 知識及び技能

- ・日々の生活や職業に対する関心を高め、将来の家庭生活や職業生活に係る基礎的な知識・技能を身につける。

イ 思考力・判断力・表現力等

- ・日々の生活や将来の社会生活に必要な事柄について触れ、課題や解決の方法に気づき、それらを解決する力を養う。

ウ 学びに向かう力・人間性等

- ・よりよい家庭生活や職業生活の実現に向けて生活を工夫し、考えようとする実践的な態度を養う。

(2) 道徳科

- ・自分でできることを自らすすんで行い、安全に気をつけ、よく考えて行動しようとする態度を育てる。
- ・家族など生活を支えてくれる人へ感謝の気持ちを持ち、友達と相互理解に努め、助け合う姿勢を育てる。
- ・家庭や学校、学級での約束やきまりを理解し、守ろうとする態度を養う。
- ・自然の素晴らしさを知り、動植物に触れ、命あるものを大切にする心を育てる。

(3) 総合的な学習の時間

ア 知識及び技能

- ・校内実習における体験活動の中で、自らの課題を解決するための知識や技能を身につける。

イ 思考力・判断力・表現力等

- ・主体的、協同的に活動する中で、自己の課題を探求的に考え、判断し、自分なりに考えをまとめて表現する。

ウ 学びに向かう力・人間性等

- ・様々な活動に取り組む中で、将来の職業生活をイメージし、自ら他者と関わり合って社会へ参加しようとする態度を身につける。

(4) 特別活動

- ・集団活動や交流等の様々な体験活動を通して、活動の意義を理解し、他者と協同することで望ましい人間関係や社会性を育てる。
- ・所属する集団の中で問題解決に向けた取り組みや意思決定、よりよい生活のための合意形成の図り方などの技能を身につける。
- ・生徒個々の自発性や可能性を伸ばし、経験を深めることにより主体的、実践的な態度を育てる。

(5) 自立活動

- ・生徒自ら障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するなど、強く生きようとする意欲を高め、生徒一人一人が自立した生活を送ることができるように、心身の調和的発達を促す。

ア 健康の保持・・・生活のリズムや望ましい生活習慣を身につけるようにする。

イ 心理的な安定・・・情緒の安定を図り、状況の理解と変化に対応できるようにする。

ウ 人間関係の形成・他者との関わりを深め、集団への参加ができるようにする。

エ 環境の把握・・・視覚、聴覚、触覚などを通して、環境を把握できるようにする。

オ 身体の動き・・・日常生活に必要な基本的動作ができるようにする。

カ コミュニケーション・・・言葉、身振り、表情、視覚的補助具等を通して、コミュニケーションの基礎能力を身につけるようにする。

(6) 各教科等を合わせた指導

① 生活単元学習

ア 知識及び技能

- ・学習指導要領の目標を踏まえ、様々な体験型の学習活動を計画し、社会生活に適應できる基本的な知識や技能を身につける。

イ 思考力・判断力・表現力等

- ・調べ学習や話し合い、実際に見聞して学んだことをまとめ、他者に伝える学習を通して思考力や表現力を高める。

ウ 学びに向かう力・人間性等

- ・生徒の興味関心に基づいた学習活動を通して、主体的に取り組む態度を育てる。

② コーポレーションタイム

ア 知識及び技能

- ・安全に気をつけ、作業活動に取り組むことができる知識や技能を身につける。

イ 思考力・判断力・表現力性等

- ・協働して働く場において自分の課題に気づき、その解決のために相談したり考えたりしたことを他者に伝える力を養う。

ウ 学びに向かう力・人間性等

- ・異年齢の児童生徒と協働学習する中で、自ら人と関わろうとする力を育み、積極的に社会へ参加する態度を養う。

(留意点)

- ①生徒の実態に応じて教科別、領域別の指導を主軸に指導する。
- ②教科別の指導は、実態に応じたグループを編成し指導する。
- ③生活単元学習は、各教科・領域の指導の内容を主軸に計画を立て、単元によって学級、学年、学部全体で学習する。
- ④生活・職業は、日頃の生活や学習場面における課題を克服するための実践的学習である。
- ⑤総合的な学習の時間は、高等部と合同の校内実習を取り扱う。
- ⑥コーポレーションタイムとは、作業学習を通して各学部が連携し、それぞれの発達段階における社会参加の視点を持ちながら同じ時間・場所・内容の活動に関わる授業である。

4 交流及び共同学習の重点

- ・近隣校及び他校の同年代の生徒や地域の人々との交流及び共同学習を通して、相互の理解を深め、豊かな人間性や社会性を育てる。

5 生徒指導の重点

- ・家庭や地域との連携を密にし、個々の生徒の発達段階や障害の状態等に応じて、学校生活や社会生活における自己実現を図っていくための資質・能力を養う。

6 キャリア教育の重点

- (1) 教育活動全般を通して生徒の資質・能力をできる限り引き出し、円滑に社会参加できるようにする。
- (2) 作業学習や校内実習を通して、働くことの大切さや楽しさを体験し、最後まで取り組む態度や意欲を養う。
- (3) 異年齢の小学部、高等部と連携したコーポレーションタイムを通して、他者と関わる力を育み、積極的に社会参加しようとする実践的な態度を養う。

7 生涯学習への意欲を高める指導の重点

- (1) 人生を豊かに生きるために生涯にわたって自ら学習し、自己の能力を高め、身につけた知識・技能や経験を社会で生かすことができる力を養う。
- (2) 学校行事を通して文化やスポーツに親しみ、生きがいのある豊かな生活を営む態度を育む。

8 安全教育の重点

生命尊重の精神にのっとり、健康で安全な生活を送るために必要な行動をとることができるようにする。

- (1) 教育活動全体を通して行う。
- (2) 健康の保持増進に努めるよう指導する。(健康診断等の活用、身体・衣服等の清潔、病気予防)
- (3) 交通安全学習や行事等を通して、交通安全についての意識を高め、きまりを守って行動できるようにする。
- (4) 避難訓練を通して、防災に対する意識を高め、災害時に必要な行動がとれるようにする。